

## 第 2 回 防災・減災に向けた課題整理

タイムライン 項目	発災前(平常時)	避難(危機切迫)	発災後(危機発生)
情報の収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような情報が、どこにあるのか市民に伝わっていない(外国人向けの避難マニュアル等)。 ⇒ 自:興味関心を持って、自ら情報を探す。</li> <li>⇒ 公:情報を「伝える」から「伝わる」へ意識・行動を変える。機会を捉えて伝える。</li> <li>・ 防災マップ、ハザードマップが分かりにくい。 ⇒ 公:小学生にも分かるマップを!</li> <li>・ 市の防災メールの登録者数が少ない。 ⇒ 自:登録する。家族・友人に勧める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難所までの経路、避難所の場所が分からない(車で?歩きで?どちらが安全?)。</li> <li>・ 避難のタイミングが分からない。</li> <li>・ 河川の水位の状況が知りたい。</li> <li>・ 防災無線が聞こえない。ラジオも持っていない。 ⇒ 自:市の防災メールへ登録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安否確認の方法が分からない。 ⇒ 自:家族で具体的に話し合う。例えば、平日に発生したとき、夜に発生したとき、連絡方法など。</li> </ul>
防災・減災への行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災用品を準備していない。何を用意したら良いか分からない。 ⇒ 自:防災グッズを用意する。</li> <li>・ 避難所の詳細が分からない(収容人数、駐車場、防犯、プライバシー対策等)ので、対応がイメージ出来ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難準備に何をしたらよいか分からない。</li> <li>・ 避難所が速やかに開設されるのか心配。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外出時に災害にあったとき、どのように行動したら良いか分からない。</li> <li>・ 帰宅困難者になった時の対応が心配。</li> <li>・ 隣近所のコミュニケーションが不足しているので、協力し合えるか心配。 ⇒ 共:日頃から近所付き合いをして、いざというときに声掛け出来るようにしておく。</li> </ul>

タイムライン 項目	発災前(平常時)	避難(危機切迫)	発災後(危機発生)
要配慮者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要配慮者の情報が地域で共有されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者や外国人の避難をどうしたら良いのか分からない。 ⇒ 共: 高齢者のサポートできるようにしておく。 ⇒ 共: 災害時の役割を地区で決めておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要配慮者が避難所で問題なく過ごせるのか心配。 ⇒ 公: 福祉避難所の設置。</li> </ul>
防災意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機意識が希薄(安全安心な太田市という思い込み)。 ⇒ 共: 所属する団体やコミュニティで防災について、危機感・リアルさを持って考える。 ⇒ 公: 防災について考える場、対話の場をつくる。</li> <li>・ 世代間による防災に対する意識の違い</li> </ul>		

凡例)「・」は課題、「⇒」は解決策。「自」は自助、「共」は共助、「公」は公助の具体的な取組。